

令和3年度第2回滝沢市総合計画審議会 会議録

(令和3年11月16日(火) 15時30分～17時00分)

(司会) 事務局

定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第2回滝沢市総合計画審議会を開会いたします。本日の出席委員は、23人中23人であり、過半数を満たしておりますので、滝沢市総合計画審議会条例第5条第2項の規定により会議が成立することをご報告します。

ここで審議会の開会にあたり、滝沢市長 主濱 了より挨拶を申し上げます。

(挨拶) 市長

お忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、令和3年度の第1回滝沢市総合計画につきましては、6月に書面による開催とさせていただいたところではありますが、全国的にも感染者数がだいぶ少なくなりましたので、本日、滝沢市総合計画審議会の開催をお願いしたところでございます。

今年度は、第1次滝沢市総合計画後期基本計画の3年目の年度であり、また、令和5年度からの第2次滝沢市総合計画の策定に向けて、方針を定めていく年度でもあります。

本日は、議事にありますとおり、一つ目は第2次滝沢市総合計画策定方針について、二つ目は令和2年度の市長方針及び各政策方針の評価について、の2点について報告させていただきます。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止・予防の観点から、会議自体も長時間とならないようご協力の程よろしく願いいたします。

(司会) 事務局

ここで、本日の日程を説明させていただきます。議事としまして、(1)「第2次滝沢市総合計画策定方針について(報告)」、(2)令和2年度市長方針及び各政策方針の評価について(報告)」でございます。なお、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、会議時間が長くないよう本日の審議会の終了時間を17時としておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、3議事となりますが、滝沢市総合計画審議会条例第4条第2項の規定により、会長が議長となりますので、丸山会長に議事進行をお願いいたします。

(進行) 会長

それでは議事に入ります。委員の皆様のご協力をお願いします。議事(1)「第2次滝沢市総合計画策定方針について(報告)」について、事務局の説明をお願いします。

(説明) 企画政策課長

現在、第1次滝沢市総合計画を推進しており、来年度で後期基本計画の4年目ということで、来年度で第1次滝沢市総合計画は終了となります。そこで、現在、令和5年度からの第2次滝沢市総合計画の策定に向け進めています。本日は、第2次滝沢市総合計画の策定方針、どのように第2次滝沢市総合計画に着手しているか、方針を説明させていただきます。

資料1の第2次滝沢市総合計画策定方針〔概要版〕で主に説明させていただきます。まず、計画期間ですが令和5年度～令和12年度までの8年間となります。第2次滝沢市総合計画の概要ですが、第1次滝沢市総合計画の策定から6年間が経過し、この間、幸福感を育む地域環境の創出のために取

り組んでまいりました。このような中で、一人一人の幸せ、充実、多様性などがさらに重視されるようになってきております。そのようなことから、今まで取り組んできた幸福感を育む環境づくりを土台に、市民それぞれが持続的・幸福（ウェルビーイング）に向け行動し、一方で広義のセーフティーネット、いわゆる市民生活の基盤を堅持し、市民の行動をバックアップするまちを目指すための行動計画としたいと考えております。

第2次滝沢市総合計画の基本的な考え方ですが、第2次滝沢市総合計画では、これまでの総合計画の流れを踏まえつつも、変化し続ける社会環境に対応した持続可能な地域社会につながるよう社会的な潮流を市の課題として取り入れた上で、大きく3つのことを基本的な考えとしております。1つ目は、持続的・幸福（ウェルビーイング）で、幸福感・多様性の尊重を踏まえながらも、これまでの幸福感から一歩進め、充実した生活などを含めた持続的・幸福を目指していきたいと考えております。2つ目は、市民生活の基盤堅持で、新型コロナウイルス感染症の蔓延による新しい生活様式への移行など、様々な変化のある社会においても市民生活が維持できるよう各種制度やインフラなどを適切に維持推進することです。3つ目は、将来世代維持可能性で、SDGs、少子高齢化による若者活躍への期待など、今の自分たちだけではなく、若者たちや子どもたちの将来世代のことを念頭に何ができるか推進する計画とし、これら3つの基本的な考えに加え、資料2の第2次滝沢市総合計画の策定方針の本編の6ページ、4の策定に際して踏まえるべき要素ということで、先ほど説明した3つの基本的な考えに加えて1～4にある持続的・幸福（ウェルビーイング）、コンパクトシティに向けた土地利用、持続可能性（SDGs）、スマートシティ（Society 5.0）についても検討すべき要素としております。

次に、市民の皆さんの意見を反映するために、今まで実施してきている滝沢幸福実感アンケートの自由記載を含めてさらなる分析を進め、計画に反映していきたくて思っております。また、現在開催中の市政懇談会のご意見等もふまえ、分析していきます。また、コロナ禍ではありますが、直接意見を聞く機会を作っていきます。一方で、若者世代の意見が少ないという課題への対応として、資料2の5ページの表にあるとおり、若者への対応として考えているところです。小学生から高校生については、企業と連携して滝沢市版のまちづくりキットを活用しながら、子どもたちの意見を聞く機会としております。大学生等には大学等と連携している授業への参加、機会毎にアンケート調査を行ってまいりたいと考えております。さらには、若い社会人に対しては、現在も実施しているタキザワコレカラカイギの中で、市のまちづくりを考える機会を創出していきたくて考え、弱いと思われる部分を補完していきたくて思っております。

続いて、滝沢市総合計画のアウトラインですが、第2次滝沢市総合計画は全体で8年の計画、基本構想8年、基本計画は4年とし前期と後期で見直しを図り、毎年実行計画を見直して進めていきたくて思っております。策定の体制ですが、庁内に策定本部会議を組織しています。そこで、庁内の案の策定につきましては事務局が中心となりますが、現在2つの若手を中心としたワーキンググループを立ち上げ、1つは指標の検討、もう1つは重点事業・プロジェクトの検討を進めています。今後においても策定段階で必要に応じ、庁内だけではなく外部の方も含めワーキンググループを立ち上げながら進めることとしております。これらについて、総合計画審議会へお諮りしながら策定を進めていきたくて思っております。基本構想は条例により議会の議決を経ることとしており、ご意見を伺いながら最終的には議案として提出します。

次の策定スケジュールについてですが、今年度基本構想案の策定を進め、令和4年度に基本計画と実行計画を策定し、令和5年の3月に議会に議案として提案するスケジュールで進めていきます。総

合計画審議会の委員の皆様には、随時お諮りしながら、令和5年の1月に諮問・答申をと考えており、今後もよろしく願いいたします。

地域別計画の策定方針については、資料3のとおり市としての方針・方向性として、担当課であります地域づくり推進課でまとめており、地域別計画の方針・方向性については、自治会連合会や各地域づくり懇談会との議論を行った上で進め、あらためて説明させていただく機会を作らせていただきたいと思いますと考えております。地域別計画についてもご意見等があればお伺いし、担当課へ総合計画審議会から伺った意見としてお伝えしていきたいと思っております。

(進行) 会長

ありがとうございました。ただいまの説明に関してご質問・ご意見等があればお願いします。

(意見) 委員

市民の思い、意見を反映しながらとあるが、パブリックコメントという制度があり、滝沢市でも実施しているが意見が少ない。昨年度4件実施し意見無し、今年4件実施し2件意見無し、1件は1つ意見等があり、もう1件は2つの意見があったくらいである。一昨年も意見等は無い。パブリックコメントを機能させる、市民の声を聞く、自ら取りに行くというようにやっていく必要があると思っております。いろんな機会に意見を徴収していると思っておりますが、パブリックコメントをもっと有効活用していただきたいと思います。

(回答) 企画政策課長

パブリックコメントについては、全国的にも形骸化してきており、市民の意見を聞くという貴重な機会ととらえており、パブリックコメントの出し方など検討していきたいと考えております。パブリックコメントを含め、意見をどう吸い上げるかが重要であり、アンケート調査は全国的に見てもここまでやっているところは無いので、このデータを生かし、自由意見もいただいているので、それらも含めて分析しながら受け止めていきたいと考えています。

(意見) 委員

市民に寄り添った総合計画を策定するにあたり、目標値を達成することために多くの声を拾い上げることは重要であると思っております。先日、朗読ボランティアという活動の中で議会だよりを録音しましたが、市の固定資産税が向上したということで、理由として新しく家を建てられた数が425棟あって増収に繋がったという話で、新しく滝沢市に入ってきた方にもストレートな意見をうかがえるのではないのでしょうか。そういった方にもアンケートをとれるような手法も大切ではないかと思われました。また、まちづくりキットについて、ホームページに掲載されていたので実際に使ってみて、すごく良いなと思われました。実際の滝沢市の建物・お店を簡単に組み立てることができ、自分の住んでいるまちへの愛着がわく良い手立てだと思っております。読み聞かせの活動の中で活用しています。少し厚めの紙で印刷をとホームページに掲載すると良いと思っております。

(回答) 企画政策課長

子育て世代からの意見は、普段からホームページなどでご意見等を頂戴し受け止めております。そういった意見が非常に大事であり、若者層から意見等をとっていくことが大きな課題だと思っております。

様々工夫をしながら考えていきたいと思えます。また、アンケートについては毎年3千人に無作為抽出しており、普段声に出せない方の意見等も入ってきますので、それらをしっかり分析し、直接聞く機会も工夫して実施していきたいと思えます。まちづくりキットについては、2回ほど学童で実施したこともあり、子どもたちにまちづくりといってもなかなか声が出てきませんが、まちづくりキットを作りながら紙に置いていくと、こういう市が良いなど会話の中から出てくるので子どもたちの考えを引き出したいと思っており、ぜひ普及させたいのでご協力いただければと思えます。

(意見) 委員

このアンケートについて、小学生～大学生、社会人と分けて実施するのが良いと思えます。例えば、滝沢市に対する愛着度について、昔から滝沢市に住んで育てば愛着がわきます。せいほくタウンなど新しく入って来られる若者や働き世代にとって愛着度と言われてもどうか、小さい頃からの育ちが関係し、小学校や中学校など育っている環境によって愛着度が育っていくと思えます。段階的に分けてアンケートをとり、育ち方が見え、愛着度の伸びが見えてくるのではないのでしょうか。学校の子どもたちに地域の良さを伝えるには、学校教育の協力が無ければ愛着度は高まらないのだらうと思えます。そこに政策をどうしていくか光が見えると思えます。

(回答) 企画政策課長

若者層に意見等を聞くのは非常に難しいと考えておりますので、答えやすい場面を作りながら世代毎にとってやっていきたいと思えます。愛着というのは非常に難しいと考えております。愛着を高めるために学校や授業に行ったりしておりますが、これに繋がるようなところを見つけながら進めていきたいと思えます。愛着といえ、若者とか定住と捉えられ、若者の問題と思いがちになりますが、そこに住んでいる大人、父母、祖父母などが影響すると考えられますので、そういった面からも進める必要があると考えております。

(回答) 教育次長

学校におきましては、社会科に「わたしたちのたきざわ」という副読本がありまして、地元を知る取り組みとか、地域の方の田んぼを借りて稲作をしたり、スクールガード等学校だけではなく地域にも育てられておりますので、そういった取り組みをしながら、地元を知りながら地元へ愛着をもってもらうという取り組みを引き続き行ってまいりたいと思えます。

(意見) 委員

資料3の2にある地域の課題ということで、常に自治会との連携が大事だと思っておりますが、ある婦人会で高齢化してきて減ってきているということで呼びかけたところ、婦人会って何ですかとか、まだ存在しているのとか言われることもあったそうです。若い方に声をかけても難しいのかなと思っております。まちづくり委員会にあっても、まちづくり委員会を知らなかった方もいるくらいであり、良い組織や自治会も頑張っている中で、知らなかったという人が無いようにして欲しいとつくづく思えます。一緒に地域で活動したり、意見を言ったりする場がないと愛着がわかないと思えます。そういった工夫をしていただき、足腰が強くなる連携ができるのではないかと思えます。

(回答) 市民環境部長

既存の組織とそれ以外の方々とでなかなか馴染んでいないところもあろうかと思えます。役員のなり手がいないというものがありますが、なり手がいないといいながら若い人がいないというわけではなくて、なかなか出会うきっかけがない、繋がりが無いということで、現在の取り組みとして、小さいつながりをいっぱい作っていきこうと、手探りではありますが努力をしています。地域の方々と話をさせていただいて、循環といいますか、円滑な交代ができる組織、そういった環境を作り上げていきたいと思っています。

（意見）委員

以前、秋田の農協が関わっている産直に女性大学というチラシがあり、様々な講座をしており、男女協働参画に枠はないので、あらゆる部署において様々な講習会や女性が参加しやすい勉強会など開催いただければ人材も増えると思います。足を運ぶ場所や知る機会を与えていただければ、若い人や女性も出向いて行ける中で、地域のことを知りながら、多方面に多岐にわたってそのような展開をしていただければありがたいと思います。

（回答）市民環境部長

どういう形で男女協働参画に繋げていくかということで進めておりますが、特化した形での講習会や講座についても検討させていただきたいと思います。

（意見）委員

盛岡市で行われている移住定住促進事業のプロジェクトに関わっているのですが、愛着というキーワードがありますが、愛着の醸成であったり、盛岡市在住だった人が首都圏など他地域にいても、盛岡市の地元の商店や景色などSNSを活用した情報発信を受けることができるように市が進めていることが、まちづくりや自分ごととしても非常に良い取り組みと感じております。滝沢市の取り組みについても、若い人も世代を越えて交流できたり、古くて新しい暮らしの営みに触れるなど、若い人が興味を持つようにポップな印象も付加しながら、未来のまちづくりに繋げることができればと思い、ご意見をいただければ幸いです。

（回答）企画政策課長

滝沢市に住んでいながら、若い人たちにとっては盛岡市と強い関連がありますので、様々な面で盛岡市と連携する必要があると思っていますし、移住定住という観点では盛岡広域で連携し進めています。情報発信については、市もチャレンジしておりSNSで情報発信しています。情報をどう仕入れてくるかが大事で、繋がりが大切になり、企画政策課においても広報担当がツイッターやインスタグラムもしております。SNSのみならず、広報も含め、情報発信が重要ですので、市も情報収集をしておりますが良い情報があればご提供いただければと思います。

（意見）委員

滝沢市観光協会でも、積極的に情報発信していますが、それぞれがやっていて横断的に繋がっていないのもったいないと感じていますので、今後滝沢市のブランドがより活性化するよう期待しています。

(意見) 委員

老人クラブもそうですし、様々な組織の人材確保の話題がありますが、年1%ずつ高齢化率が上がっています。しかしながら、組織に入って来ない、逆に減ってきている。睦大学も1,000人を目標にしているが、なかなか1,000人には届かない状況です。それが滝沢市の状況で、何でそうなるかをみんなで考える必要があると思います。例えば、福祉団体・社会教育団体もそうですが、行政として地域の組織をどういう育成の仕方、支援の仕方を考えているのか、地域力を作るということは、組織の輪を広げ、活発に活動することが地域力に繋がると思います。育成の仕方、育て方をも一度考える必要があると思います。今の政策の中で潰している部分もあるので、地域活動がどうすればしやすくなるかももう一度検討していただきたいと思います。

(回答) 健康福祉部長

睦大学、老人クラブ、福祉関係団体様々ありますが、参加される方が年々少なくなっていることについて承知しています。各団体からも組織の人数についてお話をいただいています。それぞれの組織の一番の課題と感じており、令和5年度からの市地域福祉計画を策定予定であり、福祉に携わる皆様のご意見を伺いながら計画を策定しようと考えています。各団体に投げるのではなく、市としてもどうやったら会員を増やせるか、どうしたらより良い組織となるか検討してまいります。

(回答) 企画総務部長

個人といった生活が確立され、要援護者名簿作成のためにアプローチして名簿登載いかがですかとお伺いしても結構ですと断られるケースもあります。災害時安全に守るためにといったことでも個人の生活・個人の考え方が多様化していると感じられます。しかしながら、第1次滝沢市総合計画の主眼は幸福ですが、人との繋がりというテーマもあり、次の計画にも継承しつつ、どういった形で人が繋がっているか、多様な価値観がある中で従来型の決まりきった形のものにのらなければ入れないといった枠組みも考えながら、緩やかなつながりの中で繋がって、各種団体も活動し、活動の輪が広がり、みんなで地域づくり、まちづくりができるといったことが理想ですが、そういったことを視野に入れながら策定を進め、引き続きご意見を頂戴したいと思います。

(意見) 委員

滝沢市の誇るべきものを聞くと、子どもたちは鞍掛山や岩手山火山と答えます。鞍掛山登山もしますし、岩手山の火山の紙芝居を見て子どもたちは驚きます。新しい総合計画の策定にあたり、加えるべき要素の中に4つあります。ウェルビーイング、コンパクトシティ、スマートシティ、SDGs、この4つに基づいて策定するということですが、これですと全国区で、どこかの市がこの方針で策定しても同じようなものがでてくると思います。これに滝沢市の恵まれた自然や歴史など、滝沢市らしいものができ、市民にも共感できるものができるのではないかと期待しております

(回答) 企画政策課長

お話のありました滝沢市の誇るべきものを入れて作っていきたいと思います。スマートシティ、コンパクトシティとありますが、その中で滝沢市として何が進められるのか、ご意見を聞きながら滝沢市らしさを作り上げていきたいと思っています。

(進行) 会長

以上で、議事(1)「第2次滝沢市総合計画策定方針について(報告)」については終了します。

(進行) 会長

次に、議事(2)「令和2年度市長方針及び各政策方針の評価について(報告)」について、事務局の説明をお願いします。

(説明) 企画政策課長

それでは、令和2年度市長方針及び各政策方針の評価について(報告)につきまして、資料の事前送付の際にもお知らせしておりましたとおり、説明については割愛させていただきますので事前にご覧いただくようお願いしておりました。つきましては、ご意見等あれば頂戴できればと思います。

(進行) 会長

ただいま、事務局より説明がございましたが、議事(2)「令和2年度市長方針及び各政策方針の評価について(報告)」について、ご意見等ありましたらお願いします。

(意見) 委員

3ページにあります子どもが安全に通学できると感じている人の割合について、Aとなっているがどういう観点でAなのかお聞きしたい。スクールガードが毎朝や下校時に見回っている姿から感じているのか、わかれば教えていただければと思います。

(回答) 市民環境部長

目標値に対して何%充足しているかという基準に評価しており、昨年度の実態はどうだったかなどアンケートの数値から見ればAという表記としています。

(回答) 企画政策課長

目標値に対して何%伸びているかということで、機械的にシステム上で定められるもので、それらから各担当のところで全体を勘案した自己評価というものとなります。

(回答) 企画総務部長

数値もそうですが、子どもたちや親御さんの実感が伴っており、スクールガードさんや交通指導員さんなど地域の見守りの中で、子どもが安全に通学できているというお話を頂戴しますし、この中にもスクールガードとして活動してくださっている方もいらっしゃると思いますが、子どもたちも世代間交流ではありませんが、挨拶をすとかじゃんけんするといった交流にも繋がっており、数値として表れているのも実態であると捉えております。

(意見) 委員

市役所とビッグルーフの間の横断歩道の信号機についてですが、1番多い時間帯で1,600台通っている。今年6月に千葉県で大きな事故があり子ども2人が亡くなりました。千葉に8年いたので友人に聞きましたが、昔から危険な場所で声を上げていたが放置していたためあのような事故が起き、

起きた途端に総理大臣や千葉県知事が来て、今はガードレールがついたが、何か起きてからでは遅いと思います。夕方になると中学生も多く渡ります。県警にも行ってきたが予算などと言われたがそうしている中、市民が交通事故にあったらどうするのか、市としてもっと真剣に取り組んでいただきたいと思います。

(回答) 市民環境部長

市役所前とビッグルーフの間の横断歩道に信号機をとということで、市としても警察へ情報を伝え要望しておりますが、警察には警察にも事情があると思いますが、市としても粘り強く対応していきます。

(意見) 委員

市長方針の評価について、健康づくりの関係で、評価の中で地域・団体・個人が一体となって地域づくり活動が展開されたとあるが、地域全体、市全体の活動を指しているのかお伺いしたいと思います。

(回答) 企画政策課長

健康づくりのところについては、市全体に広げていきたいという意味でございます。

(意見) 委員

一部の団体や地域が活動しているのか、地域全体が全部活動しているのかということで、全体が健康づくりに盛り上がっていると捉えられると思います。果たして実際はどうかということで、健幸アンバサダー、健康トライアルなど取り組んでいるのは知っているが、他の市町村、他の団体に広めるのならないが、それが全体として地域にどういうふうにつながっているのか、一部進展しているという評価ですが、甘い評価ではないかと感じています。どの自治会にも広がっているのか、健康づくりの機運が盛り上がっているのか、期待をしたいし、健康づくりは幸せづくりという市のスローガンがありながらもなかなか情報が入ってこない。地域というより個人に対して進めているのではないかと考えている。健幸アンバサダーを通じて、地域に情報がどれだけ伝わっているか。健康ウォークも一部の方はやっているが、どういったデータが集まって地域にどう還元するのか、自治会連合会に情報提供も無い状況である。各自治会の状況を見ながら、評価をして欲しいと思います。

(回答) 健康福祉部長

平成30年に健康づくり宣言をし、地域・団体に健康づくりに関わる事業を展開しております。なかなかそれ以上の広がりが無い状況ではありますが、地域・団体、あとは個人的に健康づくりに興味を持っている方々にターゲットをしばり参加していただいております。地域に関しては今までどおり、健康ダンスインダも団体、学校や保育園でやっていただき、地域・団体、個人にも広まっていったのではないかと評価しております。ただ、個人のものが地域におりないというのもそのとおりであり、健康づくりに関して地域・団体・個人が繋がるように、参加いただけるように考える必要があると思っています。

(意見) 委員

一つは、小岩井地区の下水道について、聞くところよれば下水管を入れたもののなかなか普及が上がらない。地域で下水道を整備するよう何十回も要望しており、いざ下水道を入れれば繋いでいただけないということについて、行政も地域も、地域も巻き込んで行政も地域も頑張らなければならないと思います。歴史的経緯についてもちゃんと説明して、地域としても動いてもらわなければならないと思います。

次に、空家バンクについてですが、近所でも空家が放置状態となっている。蔦が絡まったり、地域の防犯上も良くない。待ちの姿勢ではなく、働きかけるなど必要ではないかと思います。

(回答) 上下水道部長

小岩地区の下水道について、委員お話のと通りの経緯があり、2地区にわけて1期工事を進めたところですが。住民の要望が強いと判断しまして、1期工事をしたわけですが接続率が50%ということで公営企業が採算とれる接続率には至らないということで、1期工事は令和2年度で終了しており、2期工事についてはやらないということで地域にも説明したところですが。接続率が予定に満たないわけですが、接続についての最終の意向調査をしたところですが、接続の予定が無いということで2期工事を実施しないと結論を出したことになります。実際のところは規模的には1期工事で終了とご説明してたところですが。

(意見) 委員

2期工事分の先行投資は済みましたのでしょうか。

(回答) 上下水道部長

2期工事分の投資はありません。1期工事と2期工事とわけております。

(回答) 都市整備部長

空家についてですが、空家対策ということで、委員お話のとおり市内で空家が多い状況になっております。令和2年度で空家調査を実施し、それぞれ連絡をとり、今後の対策・活用について調査しました。現在、空家対策の法に基づく計画を策定中であり、条例に基づく委員において内容を審議いただいているところです。空家は個人の財産ではありますが、台風で飛ばされる可能性があったり、処置は個人にて行うところですが、崩れかけた家など特定空家として認定できる仕組みを作りを進め、法的に強制的に撤去したり、また、利活用したり、市街地内であればお店、サークルなどの活用も含めて空家を無くす方策を進めてまいります。

(意見) 委員

ふるさと納税、令和2年度は4千79万円で令和元年度に比し1.8倍となっているが、平成27年は6千9百万円であり、県内市町村ですと26番目、今年の4千万円のうち3千万円は教育や自然環境保護に振り分けている。北上市は16億円、全国で宮崎県都城市は135億円である。販売ツールを増やして増えたが、新しい商品などもっと増やしていけば様々なことに投資できるのではないかと思います。

(回答) 経済産業部長

ふるさと納税について、委員ご指摘のとおり県下でも低い、市の中でも低い状況です。観光物産課に事務を移管し物産振興を中心として昨年度より実施しています。企業PR、農林課で特産品用意するなど品数を増やし、サイトも増やしつつ行った成果だと思っております。今年度も1サイト追加しさらに目に触れる状況を増やし、新しい物産、追加登録をしており、件数的には昨年度よりも多い状況ですので、今後も工夫しながら目標を高く持っていきたいと考えております。

（意見）委員

審議会の在り方として、より良い政策について議論するわけですが、わくわくが感じられないと思っており、それぞれの団体の代表の声を日常的に意見を吸い上げられるようなシステムを使いながら細かいご意見に対して市としてどのように考えているかなど、見えるようになっていくとより在りたい方向に近づくのではないかと思います。抽象的過ぎてピンとこない感じがします。アンケート結果も指標や数値だけではなく、近隣市町や世界と比較するなどあってもよいのかなと感じます。また、SDGsが社会的潮流と書かれていますが、2030開発目標であり、民間は必死でやらないと融資もされない状況であり、会社であれば経営目標にしなければならない状況にあります。今後見える形にすることで、共感を生む総合計画の在り方になると感じます。

（回答）企画政策課長

情報共有に関して、やり方として総合計画審議会も1つですし、様々なやり方がありますので研究していきたいと思えます。SDGsについて社会的潮流の中に入れていますが、軽視しているわけではなく、行政がSDGsを進めるにあたり、どこまで掘り下げていくか研究している段階です。策定の過程でご意見をいただきながらSDGsのあり方について検討していきます。

（進行）会長

以上で、議事（2）「令和2年度市長方針及び各政策方針の評価について（報告）」については終了します。

本日の議事については終了となります。ご協力ありがとうございました。事務局にお返しします。

（司会）事務局

丸山会長、議事進行ありがとうございました。次に、その他となりますが、事務局から、令和2年度滝沢地域社会報告書の配布について説明があります。

（説明）企画政策課長

令和2年度滝沢地域社会報告書について本日配布させていただきました。これは、令和2年度滝沢市総合計画の中の基本構想の中にA3でまとめたものがありますが、目標としているところを毎年調査し定点で表したものです。大きなところだと、コロナの影響もあって軒並み下がっているところもあります。例えば、インターネットや広報で地域の情報を収集している人の割合が上がっていたり、趣味や特技を披露できる、地域活動と自分の活動を両立しているも上がっていたり、子育てのところでは子供との会話の時間が増えているなど、コロナの影響を受けながら変化しており、滝沢市の現状を示す1つの指標となりますのでご覧いただきたく思います。

司会) 事務局

その他、何も無いようですので、以上をもちまして、令和3年度第2回滝沢市総合計画審議会を閉会いたします。